
ポケモン『AD』

(^)y-

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ポケモン『AD』

【Zコード】

Z7264B

【作者名】

() ^ () y -

【あらすじ】

もし、あのポケットモンスターが実写でやつっていたら？その中で裏方を支える『AD』にはどのような苦労があるのか？前の仕事をクビになり、新しい仕事としてADとなつた中年の男性は主役のピカチュウにいじめられる毎日。男は旦那として父親として、何ができるのか？男が最後に出した答えとは？『ポケットモンスターが実写でやつていたら？』 第2段です。どうか楽しく読んで下さい。

(前書き)

この物語はフィクションであり、実在の人物・団体・事件・地名等とはいつさい関係ありません。

「」はいつものポケモン収録現場。

今日の収録も無事に終わり、辺りには楽しそうに談笑する者、忙しく今回使った道具の後片付けをする者、監督に叱られている者等、様々な人、ポケモンがいる。

その中で一人、いや、一匹。

いかにも不機嫌そうな顔をしている者がいた。

ピカチュウである。

いつもは愛想の良い笑顔で演技をし、人気者のピカチュウは不機嫌そうな顔を保つたまま、煙草をふかし始め、

そしていつもの、いじめが始まる。

「おいAD！何やつてんだよ！」「の菓子、嫌いだつて言つといっただろ！？」

ピカチュウは机の上に置いてある、昨日、自分で買って来いと命じていた筈の一箱6千5百円もする菓子折を命じていた筈の、目の前にいるADに投げつけた。

「す、すいません！」

「たくつ、そんなんだからその歳で前の会社をクビになつて、今み

てえなアシスタントとの仕事しかできねえんだよーー！」

ピカチュウは目の前の42歳既婚、子供が二人いる男に歩みより、胸ぐらを掴みながら残酷な言葉を叩きつけた。

男は何も言わない。

ピカチュウはこのポケモンの主役であり、男よりも歳は低いものの、立場は相手の方が遙かに上。

だから何も言わない。何も言えない。言つ訳にはいかない。歯を食い縛り、拳を固く硬く堅く、血が出るまで握りしめ、耐え続ける。

「おい！なんか言つたらどうなんだよーーあつーー？」

ただ黙つて頭を下げる男。

男がこの世界に遅くながら入り学んだことはひたすら謝ること。謝つて、謝つて、謝り通す。

そつして生きていいくしかない。

数年前、男は前に勤めていた会社をクビになつた。

小さな建設会社だったが、汗水をたらし、自分なりに一生懸命会社の為に働いた。

しかし、今の不況の煽りを受け、その会社は倒産こそしなかつたものの、人件費削減という名目で男を解雇した。

確かに、そのことでは始めは会社を恨んだりもした。だが、そんなことを気にもしても仕様がない。自分には愛している家族がいる。

養わなければならぬ家族がいる。

だから男は必死で就職先を探し、なんとかテレビ局のADとして雇つてもうつことができた。

仕事は忙しく、愛しい家族とあまり会えないのが難点だが、充実はしてゐるし、なんとか生き甲斐を感じることも出来てゐる。いつかは自分の番組を演出するという夢もある。

だから

(この程度のことなど、いへりでも我慢してやる……)

ただひたすら頭を下げ続ける男をピカチュウは口の端をつり上げ、意地悪く睥睨しながら、

三三

「ちつ！ 使えねーなあ……いつも通り謝ってないで、少しほは言ひ返してみろっての……！」

……睡をかけられても我慢。ただ、ひたすら頭を下げる。

何も言えない男をからかう為にピカチュウはそんなことを言つてい
るだけ。

そのことを男はわかつてゐる。

だから、

何も言わない。

「はあ……」じんな旦那と親父を持った、お前の奥さんと子供は最悪だなあ？」

ピキッ

「ハハハ！ そうだな、本当に最悪だ！ おれがてめえーのようつの親父を持つたら、間違い無くグレルな！」

ピキッピキッ

「つーか、お前の奥さんもよくお前なんかと結婚したな！？… そつか、わかった！？ 無理矢理脅して結婚したんだろ！？… ん？ それとも、お前の奥さんも最悪な人間か！？ ハハハ！」

ピキッピキッピキッ

「最悪な親父と最悪な奥さん！ そして、そこから生まれた最悪の子供！？ ハハハ！ 最高だなあ！ ハハハハハハハハ！」

スタジオに響き渡るピカチュウの笑い声。

それは自分が田の前にいる男より、立場が上であることを威張るよう、「わからせるよ」と、元氣に笑いつ。

そして、男の心をえぐるよと笑いつ。

男はわかつてゐる。

「ここで言い返してはダメだと。

男には愛している妻がいる。

男には愛している子がいる。

養つべき、愛している家族がいる。

（…言い返してはいけない）

男は更に歯を食い縛り、手を握り締める。

（「みんな……お父さん、お前達の悪口を言われてるのに言い返せないや……」）

男は心の中で、今、謝っている相手ではない、愛しい家族に向かって謝っていた。

言ひ返せなくてすまない。

前の会社をクビになつてしまない。

時々しか会えなくてすまない。

こんな、こんな旦那で、こんな父親ですまない。

男は愛しい家族に謝っていた。

謝っていた。

その時

「たくつ、お前等家族が全員死んじまえば、この世はもつと綺麗になんのによー！ハハハ！！」

男には愛している妻がいる。

男には愛している子がいる。

愛している家族がいる。

「…今、何て、言つた？」

そうだ、

だから、だからこそ、

その言葉を許す訳にはいかない！

家族の死を願う言葉を、

私は、絶対に許す訳にはいない！！

「…はあ？」

急に低い声を出す男にピカチュウは笑つ」と止め、いぶしむみがる。

「今、何て言つたつて……言つてるんだ！！」

「ええ？」

ピカチュウは反応に困った。

この男は謝ることだけしか能の無い人間だと、信じて疑わなかつたからのだから

だか、この男は謝ることだけが能のある人間などでは、断じてない。

ましてや、我慢だけが取り柄の人間でもない。

男は

そう、この男は

子供と、奥さんを世界一愛している旦那であり、父親だった。

「私の悪口を言おうが、私の顔に唾を吐こうが、一行に構わない」

大きく深呼吸する男。

「……家族の悪口も、多少であれば、目も耳も瞑ろう」

今まで、固く硬く堅く、握り締めていた拳の右を、大きく、大きく、振りかぶる男。

「けど、それだけは、その言葉だけは、何人たりとも絶対に言わせる訳にはいかない！！！」

「お、おーーちょ、ちょっと待てーーお、お前、クビになつてもいいのかーー？お、おれを殴つたりしたら、ま、間違い無くクビだぞ！？いいのかーーえ！？」

旦那でいるため、父親でいるため、

そして、なにより、“家族”でいるため

構わない！—

ドーン！—！—！

男は田の前のピカチュウの顔面を殴つづけるーー！

そして、告げる。

「おれは家族の旦那で父親だーー！」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7264b/>

ポケモン『AD』

2010年11月13日23時16分発行